

山野の草地造成



畜産発展の基盤を

つくる牧草

最も経済的で、手間もかからず、年中豊富な飼料を提供してくれるのは「牧草」です。狭い日本の国土を広く利用するため、未利用の土地や低位生産地はドンドン牧草地にしましょう!! 天然野草地も牧草によって相当の収穫を挙げることができるのです。

未利用地の草地造成は大団地で機械力を利用して行なう場合と小団地のため機械力の導入ができない場合とがありますが、独力でもできる小団地の草地造成について述べてみましょう。

一 草地改良のための準備と実施上の注意

- * 野草、とくにイバラや毒草を除去すること。
- * 消石灰や炭カルを散布すると、酸度を矯正し牧草の定着をよくする、また熔成燐肥を施すこと。(一〇〇kg当たり、炭カル二〇〇kg、熔燐六〇〜七〇kg)
- * 土壌流亡の多い裸地では、先ずメドハギ、ヤハズソウ、バズフトトレフォイル、ラブリグラス等を導入する。
- * 野草地の新墾はあまり深起しせず、六〜一〇cmとする。
- * 施肥は充分に。少なくとも窒素八g、燐酸一二g、加里八g位の成分量は必要です。窒素は石灰窒素、尿素がよい。
- * 野草や雑草の草勢の弱まる秋に播種する。東北・北海道では八月中下旬、暖地では九月上中旬。
- * 降雨後か降雨を見計らって播種する方が発芽のために良い。播種後充分に鎮圧すること。
- * 野草や雑草が旺盛に伸びて牧草が圧倒されるようならば掃除刈りを行なうこと。追肥しながら頻繁な刈り取りを行なうことが草地改良成功のカギです。

二 簡単にできる草地改良法

① 普通追播法

デスクハロー、マンガ等で地表を浅くかき起こし、牧草を播種した後、軽く覆土し、更に鎮圧しておく方法で河川敷、畦畔、シバ型野草地の改良に適します。

② クロレイトソーダによる追播法

笹枯しとして卓効あるクロレイトソーダ等の塩素剤を散布し、笹や野草を枯らして約一ヵ月後に普通追播法に準じて行なう方法で、笹やチガヤの生えている野草地特に効果が有り、薬剤費は一〇円当たり一、〇〇〇円位ですが、地表処理し易く、確実な方法です。

③ 堆肥団子法(塊状点播法)

よく腐熟した堆肥を一〇kg当たり約一、〇〇〇kg用意し、これに化学肥料、牧草種子を混ぜて、一個一、五kg程度の大きな団子を作り、三三平方分当たり二カ所位の見当で、地表を唐鋸でうすくけずり、団子を軽く踏みつけておく方法です。団子の作り方は堆肥を二等分し、いね科とまめ科の種子を別々にまぜて、化学肥料は速効性のものを少量まぜるようにします。

④ 带状耕起法

堤塘や急傾斜面で行なう方法で、法面と直角の方向に一〇〜三〇cm程度の幅で横に带状耕起し、肥料を施して、播種、覆土、鎮圧を行なうもので、この場合いね科、まめ科の交互畦栽培と混播の二方法があります。(注) シバ型草地にはクロバネ、スキ型草地にはいね科草が導入し易い。

堆肥団子法、带状耕起法に用いる牧草は、地下茎や匍匐茎で広がる草種の利用が必要で、ラデノクロバネ、白クロバネ、スムースブロームグラス、ケンタッキー三一フェスタ、湿地ではリードカナリィグラス等が主体となります。

ルタバガとは?

トピック

ルタバガは寒冷な地帯及び時期に利用される家畜用根菜です。普通、カブより晩生ですが、肉質の堅い大型の根が収穫されます。名前はルタバガが本場で、ルタバカ、ルタバカ、ルタバガなどはあやまりです。日本では、別名スエーデンカブ、センダイカブなどと呼ばれています。カブとは異なる植物で、むしろナタネに似ています。稚苗時代はナタネそっくりですが、やがて根が太り始めますから、ご心配なきよう。暖地では九月上旬頃播き、二〜三月頃までに逐次収穫し給与します。

草地造成の混播例 (一〇〇坪当たりキ)

◎河川敷、堤塘用

▼放牧牧用

- ラデノクロバ 〇・五
- オーチャード 〇・一〇
- グラス 〇・一〇
- ケンタッキー 〇・一〇
- 三二フェスタ 〇・一〇
- ペレニアル 〇・五
- ライグラス 〇・五

▼刈草用(東北、北海道)

- 赤クロバ 〇・五
- ラデノクロバ 〇・五
- オーチャード 〇・一〇
- メドウフェスタ 〇・五
- 刈草用(暖地) 〇・五
- 赤クロバ(ルース) 〇・一〇
- 白クロバ 〇・五
- オーチャード 〇・一〇
- トルオート 〇・一〇
- グラス 〇・五

◎里山、原野用

▼放牧牧用

- (土壌条件のよいところ)
- オーチャード 〇・一〇
- ラデノクロバ 〇・五
- イタリアンライマ 〇・一〇
- たはH・ワンライ 〇・一〇
- グラス 〇・一〇
- 放牧牧用 (土壌条件の悪いところ)
- 白クロバ 〇・五
- パズフット・トレフォイル 〇・一〇
- オーチャード 〇・一〇
- ケンタッキー 〇・一〇
- 三二フェスタ 〇・一〇

▼刈草用

- (土壌条件のよいところ)
- 赤クロバ 〇・一〇
- ラデノクロバ 〇・一〇
- オーチャード 〇・一〇
- イタリアンライマ 〇・一〇
- たはH・ワンライ 〇・一〇
- グラス 〇・一〇
- 刈草用 (土壌条件の悪いところ)
- 赤クロバ 〇・一〇
- オーチャード 〇・一〇
- トルオート 〇・五
- メドウフェスタ 〇・五

◎樹林地用

- オーチャード 〇・一〇
- ケンタッキー三二フェスタ 〇・一〇
- ラデノクロバ 〇・五

◎砂丘地、はげ山用

- パズフットトレフォイル 〇・一〇
- ケンタッキー三二フェスタ 〇・一〇
- ワイーピングラグラス 〇・五
- スムーズブROOMグラス 〇・五

草地改良に主として利用される牧草の種類と品種

草姿	牧草名	特性	優良品種	主要特性	伸長型		中間型		下草型	
					ね	い	科	科	科	科
刈草用	赤クロバ	排水不良、強酸性地以外は各地で栽培でき、青刈、乾草、放牧、緑肥用として用途大	ハミドロ	中生種で最多収の耐病性、北海道、東北向(現在品切れ) 夏がれにも強い	ね	い	科	科	科	科
刈草用	アルサイクソロバ	根が深く、耐旱性強く、永年性で排水良好な土地に石灰を充分施して作る	ケンランド	暖地の耐病性多収種、夏がれにも強い	ね	い	科	科	科	科
刈草用	クリムソソングロバ	酸性、湿地でもよく出来る二年性	マンスモス	晩生の伸長多収種、一回刈用として再生力も旺盛な新品種	ね	い	科	科	科	科
放牧用	チモシ	乾燥地以外は土地を選ばず、冷涼な気候を好み多年性	ベネスコット	早生種で初期生育早く耐暑性あり、再生力も旺盛な新品種	ね	い	科	科	科	科
放牧用	オーチャード	気候を選ばず再生力旺盛な多年性	デニブ	早生、直立型、耐病多収品種	ね	い	科	科	科	科
放牧用	ケンタッキー三二フェスタ	不良土壌地帯に利用する強健、多収の多年性	ウイリアムスブルグ	特に暖地で多収出来る(現在品切れ)	ね	い	科	科	科	科
放牧用	ブROOMグラス	早刈に強く、気候土壌を選ばず、窒素の要求大、多年性	ナラガンセット	播種当年からの生育旺盛	ね	い	科	科	科	科
放牧用	リードカナリーグラス	強い地下茎をもって湿地に特によい多年性	四倍体	約一〇日晩生の巨大型で五〇%前後の多収種	ね	い	科	科	科	科
放牧用	パズフットトレフォイル	乾燥した瘠地の改良用、多年性	雪印改良種	約二週間晩生の多収種で夏がれ、ウシ生種で極めて葉の多い多収な優良品種	ね	い	科	科	科	科
放牧用	メドウフェスタ	湿地原野林地等に利用、多年性	雪印改良種	約二週間晩生の多収種で夏がれ、ウシ生種で極めて葉の多い多収な優良品種(現在品切れ)	ね	い	科	科	科	科
放牧用	ペレニアルライグラス	暑気に弱いが、冷涼湿润によし、短年性	フロド	約二週間晩生の多収種で夏がれ、ウシ生種で極めて葉の多い多収な優良品種(現在品切れ)	ね	い	科	科	科	科
放牧用	H・ワンライグラス	ペレニアル、イタリアンの中間種	雪印改良種	約二週間晩生の多収種で夏がれ、ウシ生種で極めて葉の多い多収な優良品種(現在品切れ)	ね	い	科	科	科	科
放牧用	イタリアンライグラス	冷涼な気候で生育旺盛、一年性	雪印改良種	約二週間晩生の多収種で夏がれ、ウシ生種で極めて葉の多い多収な優良品種(現在品切れ)	ね	い	科	科	科	科
放牧用	レッドトツプ	酸性、湿地に強い多年性	雪印改良種	約二週間晩生の多収種で夏がれ、ウシ生種で極めて葉の多い多収な優良品種(現在品切れ)	ね	い	科	科	科	科
放牧用	白クロバ	強健で全国いたる処に栽培される多年性	雪印改良種	約二週間晩生の多収種で夏がれ、ウシ生種で極めて葉の多い多収な優良品種(現在品切れ)	ね	い	科	科	科	科
放牧用	ケンタッキーブRUMグラス	温暖、湿润地によく、暑気に弱い多年性	雪印改良種	約二週間晩生の多収種で夏がれ、ウシ生種で極めて葉の多い多収な優良品種(現在品切れ)	ね	い	科	科	科	科
放牧用	ペントグラス	気候を選ばず瘠地でもよい	雪印改良種	約二週間晩生の多収種で夏がれ、ウシ生種で極めて葉の多い多収な優良品種(現在品切れ)	ね	い	科	科	科	科

備考 (一) 播種期 北海道八月上旬・中旬、東北八月下旬・九月上旬、中央地区九月中下旬、西南地区九月下旬・十月上旬 (二) 播種量 十壤に合う牧草をまめ科、いね科数種混合で一〇坪当り刈草用二・二・五キ、放牧用二・五・三キ(上記混播例参照)